

解答例A

筆者によれば、遊び自体を目的とした活動である遊び
 と違い、遊び心は遊び以外の活動や事物に向かう姿勢、
 心理的・身体的・感情的な見方である。遊び心は、合理
 的で秩序立った既存の日常や環境の中へ、動的で魅力や
 表現力に満ちた遊びの諸特性を持ち込み攪乱する。人間
 は遊び心を介して、人生の実利や成果につながる遊びの
 特性のみを導入することで、真剣さや機能性とは対照的
 な予想外の批判・風刺などの自由を生み、自明で画一的
 な世界を個人に固有な見方・表現を持つものへ変える。
 筆者の言うように、私たちはダイナミックで表現力に
 満ちた遊びの持つ魅力的な要素と、成果の上がる実利的
 で有益なものとを同時に手に入れたいと考えるものだ。
 実利や有益さの面については、勉強に遊びの要素を取
 り入れると捗るといふことからわかる。ある程度単語
 を覚えた後、クイズ形式で隣の席の同級生とテストし合
 うと効果が上がる。ゲーム感覚での暗記は、最低限の知
 識をインプットするのに向いている。その意味でも遊び
 心は「成績を上げたい」という真面目な目標に向う時に
 も、私たちが後押ししてくれものだ。

た独自の表現は、既存の日常を攪乱し人々を騙しもする。ダリの騙し絵の世界は、見る者の頭を疑問符で一杯にする。そこには錯覚し騙される快樂と、遊び心が悪意にも似てくる境目、危うさがある。その意味で、遊び心の使い方を誤ると日常の秩序を脅かす諸刃の剣にもなる。私が遊び心の実用性と魔力の幸福な結合を見る例は、食品サンプルの店で出会った海苔に乗ったイクラだ。イクラの艶やかな潤いといい、海苔の質感といい、本物と見まがうミニチュアであった。大正末期に生まれた食品サンプルは今や、見本としての実用性も土産物の域をも超えて、日本ならではの文化とまで言えるものだ。そこには、視覚的には本物と寸分違わぬリアルさの追求、真剣な遊び心がある。その遊び心はこぼれたミルクなどのお茶目なアイデアに結実するとユーモアにも発展する。日本で生まれ育った食品サンプルが世界中の人に愛されていることから、手仕事を大事にする日本人の精神性とお笑いの文化が融合した遊び心そのものが魅力的であることを、食品サンプルは示唆する。このように遊び心とは、多彩な様相を呈して私たちの前に現れ、時として幻惑するがゆえに、有用で可能性に満ちたものなのだ。

筆者によれば、遊び自体を目的とした活動である遊び
 と違い、遊び心は遊び以外の活動や事物に向かう姿勢、
 心理的・身体的・感情的な見方である。遊び心は、合理
 的で秩序立った既存の日常や環境の中へ、動的で魅力や
 表現力に満ちた遊びの諸特性を持ち込み攪乱する。人間
 は遊び心を介して、人生の実利や成果につながる遊びの
 特性のみを導入することで、真剣さや機能性とは対照的
 な予想外の批判・風刺などの自由を生み、自明で画一的
 な世界を個人に固有な見方・表現を持つものへ変える。
 私は筆者に同意し、硬直化した現実を疑い更新する契
 機である遊び心は、文化に必要な解毒剤だと考える。
 路上に落書きめいた風刺画を描くバンクシーの態度は
 一見、単なる遊びにも映る。だが、イスラエルとパレス
 チナ間の分離壁に描かれた「壁の裂け目」が見る者に訴
 えるのは、暴力的な分断への鋭い批判であり、多民族・
 多宗教が共存できる未来への強い渴望だ。ここには、遊
 びの外側、即ち現実世界に向けた真面目な抗議活動を、
 自由かつ個性的な仕方で表現しようとする遊び心がある。
 同様に、コロナ禍の中で発表された、男児が看護師の
 人形で遊ぶ彼の絵からは、前線で奮闘する医療従事者へ

の敬意が優しく伝わる反面、人形を弄ぶように医療従事
 者を都合良く英雄視しつつ消費しようとする私たちの社
 会の酷薄さに対する皮肉も滲む。世界全体が危機にある
 今、真に尊い価値とは何か、うわべだけでない真の連帯
 とは何か。こうした強いメッセージと共に、生き生きと
 した筆致が私の脳裏から離れないのは、彼の遊び心が世
 界を個人化し、それを見る私もまた彼の目線に沿って世
 界を新鮮な切り口から見ざるを得ないからだ。喉元に突
 き付けられたユーモアと言うべきか、見馴れたはずの日
 常が攪乱され、異物として立ち上がる一種の快感を感じ
 る時、見る者の間にあった「壁」は取り払われるのだ。
 仏文学者の渡辺一夫は人間の自動人形化への危惧を説
 いたが、世界の現状は大国の利害が衝突し、隣国への憎
 悪が増し、社会内で分断が進む「壁」の時代だ。その中
 で人が人を人形のように使い捨ててはいないか、そう思
 ってハッとする時、人は人間に戻る。かつてサブカルチ
 ャーとして蔑まれたマンガが文化の一領域を占めて久し
 いように、鳥獣戯画にも似た鼠を描くバンクシーが体现
 する遊び心は、文化や人間社会が自閉化することを防ぐ、
 文化の中の外部であり裂け目として不可欠なものだ。